

既存ダム等の効果 淀川水系 高山ダム

○高山ダムにおいて、降雨予測や下流状況を踏まえ、特別防災操作※（空き容量確保・ピーク流量低減）を実施。

（空き容量確保）

・10月22日8時時点で総雨量が470mm以上に達するとの予測となり、予備放流（本則操作 予備放流水位117.0m）を実施、さらに事前放流（更なる空き容量確保）を行い、ダム貯水位を下げ、**約650万m³の空き容量を確保**。

（ピーク流量低減）

・その後、洪水調節を開始し、本則操作により一定率で放流量を増加させたが、下流の有市地点（笠置町）で木津川の水位が上昇し、家屋浸水が発生する水位になることが想定されたため、今後の降雨予測から放流量を低減させてもダム水位が洪水時最高水位を越えないことを確認し、**下流の被害軽減のため、特別にダムの放流量を低減**。

・さらに、降雨予測で降雨のピークと降り終わりが確認でき、ダム水位も洪水時最高水位を超えないと判断されたことから、**有市地点の道路浸水回避や木津川の下流域、淀川本川の水位低下のため、特別にダムの放流量の低減を更に2回実施**。

（効果）

・有市地点（笠置町）で、**約1.9m水位低減**（本則操作：約1.1m低減、特別防災操作：約0.8m低減）

・一連の操作により、**ダムが無かった場合と比べ家屋浸水を回避させ、国道163号線の通行止め（水没）時間を2時間半短縮**

（8時間通行止めを5時間半に低減）

高山ダムと有市地点の位置図



ダム貯留状況写真

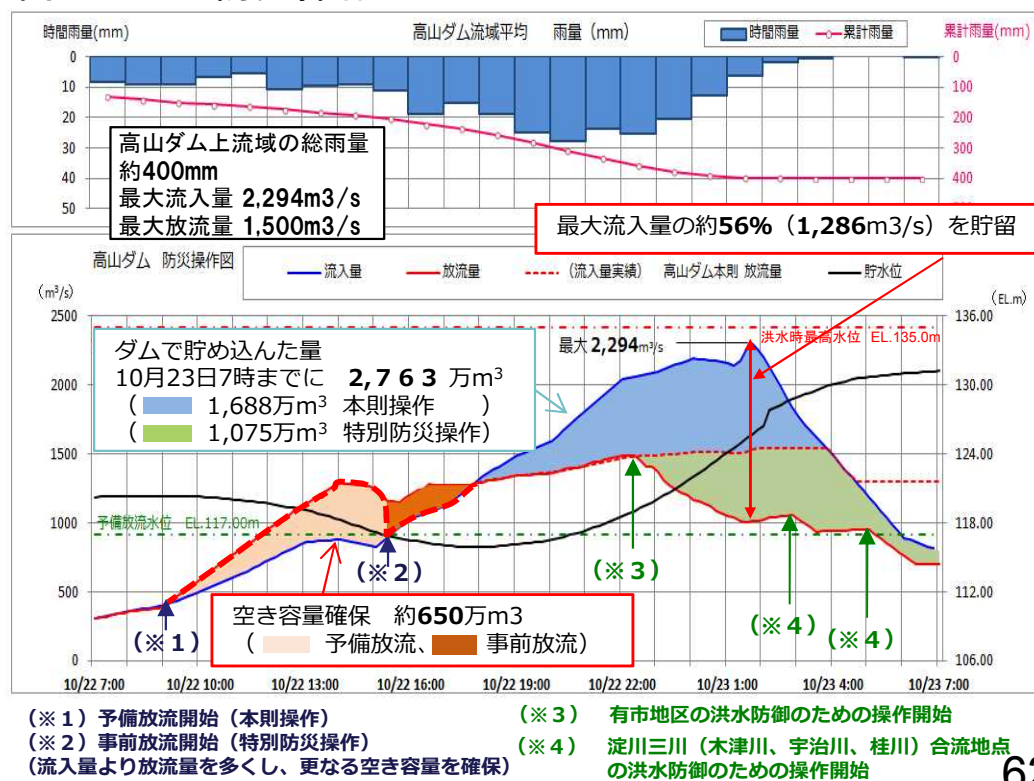


洪水調節前の22日17時頃のダム堤体上流面

有市地点における水位低減効果



高山ダムの防災操作図



※特別防災操作
 ・降雨予測を踏まえて空き容量確保をしたり、降雨予測や下流状況を踏まえ、ダム容量の範囲内で洪水調節可能か確認のうえピーク流量の低減を行う操作。
 ・本操作は上記の条件を満たす時にできる特別な操作であり必ず実施出来るものではありません。